

学びのデザインシート

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【外国語活動】

1. 対象 特別支援学校 小学部4年
2. 単元名 「What's this?」(全6時間)
3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・ある物が何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができる。
思考力, 判断力, 表現力等	・今まで学んできた単語や表現を用いて、教師や友達とやり取りをすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	・日本語と英語の音声や文化の違いに気付こうとする。

4. 本時の目標

買い物の場面を想像して、英語やジェスチャーを使い、教師とやり取りをすることができる。

5. 授業展開【**本時** ・ 単元】

解決したい課題や問い

買い物の場面で、その物が何か分からない物があるときに店員さんに何と言ったらいいかな。

考えるための材料

今日のキーワードとして表現を紹介し、板書しておく。

「What's this?」の表現をクイズ形式で事前に表現に慣れておく。

海外での買い物の様子の「What's this?」を使う場面の動画を観る。

買い物の場面を設定し、今日のキーワードや既習学習の言葉を使って教師とやりとりをする。

想定される活動

先週も同じキーワードだった。何と読んだかな。「ワッツナット。」と発言する。

クイズを出す側になり、先生に「What's this?」を使ってクイズを出す。時々言うのを忘れるが楽そうに教師にクイズを出す。

フランスのパンが並んでいるところで動画を制止させ、「知らないパンがあって、買ってみたいときに英語で何と聞いたらいいですか。」と質問をする。

→「何と言えばいいかな。」と思う児童や「What's this?」を使うと発言する児童がいる。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

・フランスのパンが並んでいるところで動画を制止させ、「知らないパンがあって、買ってみたいときに英語で何と聞いたらいいですか。」と質問をする。

→「何と言えばいいかな。」と思う児童や「What's this?」を使うと発言する児童がいる。

・買い物の場面を想定し、教師と児童1対1で対話する。教師が店員役、児童がお客役

1 買いたいパンがある→パンを指差しながら「What's this?」と教師に聞く。→教師が答え、名前が分かる。→買いたいけれど何と言ったらいいのかな?→教師が「○○please」と言う→真似をして伝える。→教師が既習学習の「How many?」と聞くと「Two」と答えて、パンを買うことができた。

2 買いたいパンがある→パンを指差しながら「What's this?」と教師に聞く。→教師が答え、名前が分かる。→「いくらですか。」と日本語で聞いたので、「How much?」と言う。→教師の真似をして「How much?」と言って、パンを買うことができた。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

名前が分からないパンがあるけれど買ってみたいとき、「What's This?」を使うと買うことができた。